

Spalt-like transcription factor 4 immunopositivity is associated with epithelial cell adhesion molecule expression in combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma

田中, ゆき

<https://hdl.handle.net/2324/1654710>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名：田中 ゆき

論 文 名：

Spalt-like transcription factor 4 immunopositivity is associated with epithelial cell adhesion molecule expression in combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma

(混合型肝癌において免疫組織染色での転写調節因子 Spalt-like 4 陽性は EpCAM 発現と関連する)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

混合型肝癌は二相性の性質をもつ稀な肝癌である。近年の研究において混合型肝癌は肝前駆細胞を起源とすることが示されてきた。SALL4 は高悪性の肝細胞癌の前駆細胞の性質を持つ一群のマーカーであるが、混合型肝癌における SALL4 発現については明らかではない。そこで我々は混合型肝癌における SALL4 の免疫組織化学染色での発現と臨床病理事項について、また SALL4 の 2 つの異なった核染色パターンについても検討を行った。SALL4 の免疫組織化学染色で核がびまん性に染色されるものを陽性と定義し、混合型肝癌 90 例中 8 例(8.9%)が SALL4 陽性であった。SALL4 の免疫組織化学染色陽性は α -フェトプロテイン、グリピカン 3、EpCAM の免疫組織化学染色陽性と有意に関連していた。免疫組織化学染色における SALL4 陽性と予後に関連は認めなかった。また免疫組織化学染色において核にびまん性に染色されず斑点状の染色パターンを示す症例において SALL4 の mRNA 発現を認め、それらは核にびまん性に染色される症例と比して EpCAM の免疫組織化学染色における陽性率が有意に低かった。免疫組織化学染色における SALL4 陽性は混合型肝癌においては予後因子ではないが、 α -フェトプロテイン、グリピカン 3、EpCAM の免疫組織化学染色陽性に関連しており、発癌メカニズムを示唆していると考えられる。SALL4 の免疫組織化学染色パターンの解釈については更なる研究が必要である。